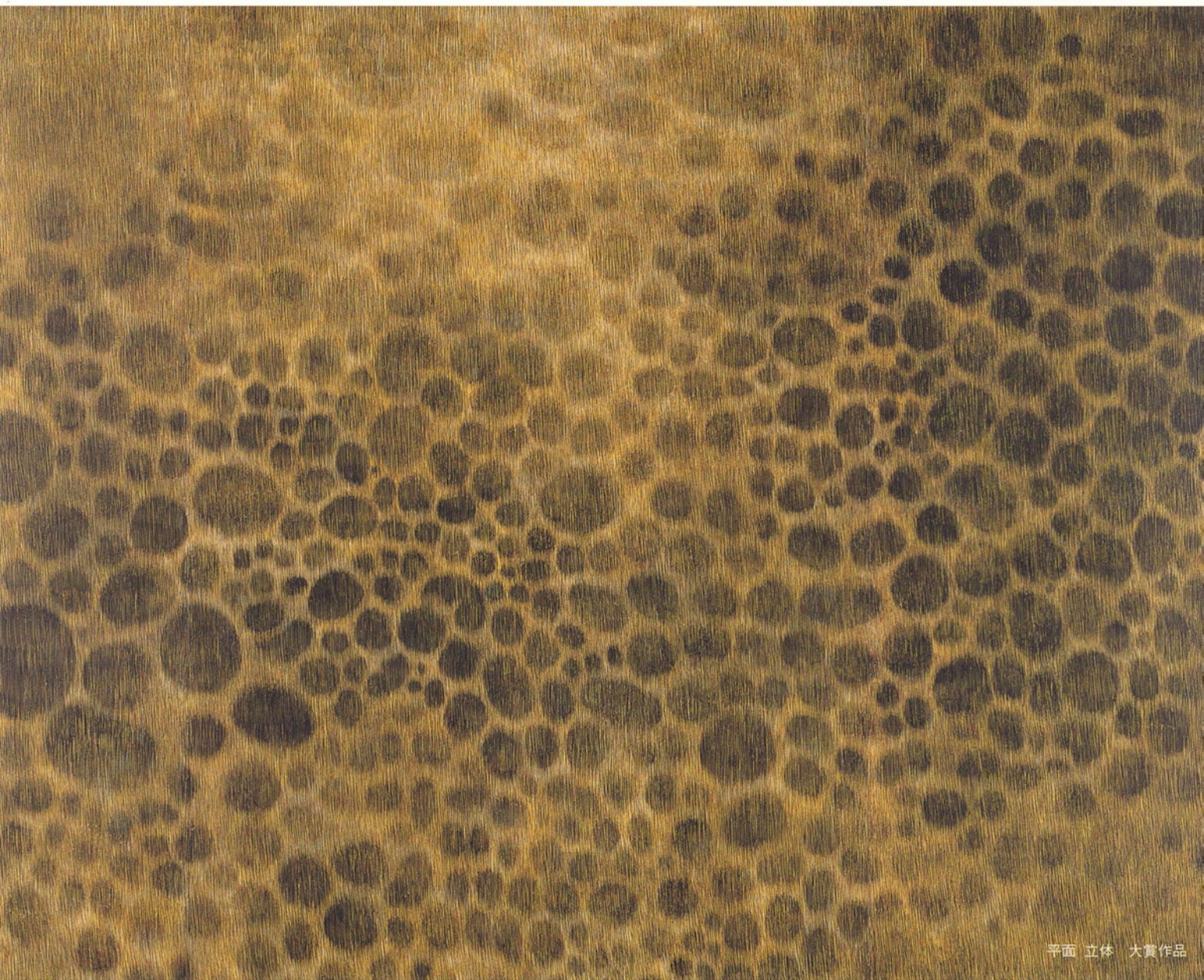


第35回 神奈川県美術展



平面 立体 大賞作品

1999

第35回 神奈川県美術展

1期展／工芸 書 写真 平成11年9月7日(火)～19日(日)

2期展／平面 立体 平成11年9月21日(火)～10月3日(日)

会場：神奈川県民ホールギャラリー

主 催／神奈川県民ホール [(財)神奈川県芸術文化財団]

神奈川県

神奈川県美術展委員会

(厚木巡回展のみ)

厚木市

厚木市教育委員会

厚木市文化会館事業委員会

厚木巡回展／平成11年10月6日(水)～17日(日)

会場：厚木市文化会館展示室

1 期展

工芸・書・写真

受賞作品目録

《工 芸》	大	賞	齋 藤 龍 也	横浜市	白化粧象嵌花器
	準 大	賞	北 垣 幾 子	横浜市	すすきが原
	特	選	小田中 藍	伊勢原市	やまびこ
	特	選	一法師 和 晃	相模原市	彩
	特	選	根 岸 律 子	平塚市	青と緑の中に
	特	選	坂 本 采季香	横浜市	刻の軌蹟
	美 術 奨 学 会 賞		古 賀 盛 嗣	横浜市	ミストラル
	美 術 奨 学 会 賞		大 山 み つ	大和市	四段引出し
	県 議 会 議 長 賞		亀 井 知 子	横浜市	クレオパトラ
《 書 》	大	賞	稲 葉 竹 苑	中郡二宮町	観 雨
	準 大	賞	齋 田 和 子	横浜市	秋の夕暮
	特	選	加 藤 州 処	横浜市	弘舞歌詞
	特	選	大 木 明 子	横浜市	見付拓詩「朝餉」
	特	選	牧 野 幽 峰	横須賀市	送殷淑(李 白)
	特	選	鈴 木 白 鷺	横浜市	夏のしるし
	美 術 奨 学 会 賞		住 本 霞 城	横浜市	和歌四首(万葉集より)
	美 術 奨 学 会 賞		安 部 梅 陽	鎌倉市	汪洪度詩

※美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新進作家の発掘・育成を目的として設立された神奈川県美術奨学会から給付される賞です。
 ※市町名は現住所です。

《写 真》	大	賞	林 京 子	伊勢原市	午後の街
	準 大	賞	中 谷 晴 男	横浜市	峠の人々—ボカラー
	特	選	岩 崎 卓 也	帯広市	風の小径
	特	選	金 鎮 寿	新宿区	ミエザルテ
	特	選	加 藤 心 一	横須賀市	天龍進水
	特	選	武 山 敬 子	横浜市	誕生（2－1）（2－2）
	特	選	鈴 木 良	鎌倉市	行 方
	特	選	福 田 幸 子	横浜市	おんな どう 私 紅
	美 術 奨 学 会 賞		榊 原 俊 寿	湯河原町	動物賛歌
	美 術 奨 学 会 賞		高 木 太三郎	鎌倉市	猫 参 上

入選作品目録

《工芸》

佐野 伸 司	亀 裂	勝孝 / 石渡以久子	抱
桑 原 平 治	黄瀬戸草文組鉢 (5 客)	伊 藤 富美子	ひかりの風
小笠原美佐子	おひさま	比 嘉 広 子	帰 舎
小野里 澄人	AMANO GAWA (天の川)	今 井 美智子	AQVARIUM 2
山 口 浩 二	グランブルー	宮 原 二三子	中長はんてん
前 原 祥 子	色絵桜図大皿と六枚組皿	米 澤 昌一郎	灰釉鉄絵合子
菅 原 準 二	竹林文黒皿	沢 田 義 雄	牧 夫
末 吉 正 敏	備前竹窓付花入	歌 田 輝 雄	練上焼盃
岡 村 徹	生命の樹	福 島 寛 子	呉須絵矢絢文大鉢
蓮 沼 芳 子	散り紅葉	釣 敬 子	切子花器
木 下 貞 雄	青磁花器	一 色 幸 子	彩 華
若 林 和 正	焼締台皿	辻 孝 子	彼と彼女
田 邊 麻理子	鉄釉組鉢 (7 枚)	吉 田 健 二	波紋板皿
汐 谷 美樹子	機械からの警告	古 根 香	幽 墟
坂谷内 悟	花 韻	志 村 富美子	COSMOS
田 中 康 子	そよ風	齊 藤 光 一	稜 峰
鈴 木 和 夫	土の彩り (二重象嵌：地と花文様)	繁 昌 孝 二	浜の香り
宮 部 礼 子	熱気球	沖 知 江 子	かすみ
杉 山 紘 美	私・願う事	西 山 義 彦	櫛 目 鉢
今 林 美恵子	残照の森と暮色の街	本 山 洋 子	古布再撚
天 野 奈 迦	煌 No.5	梶 原 美枝子	樹林文大皿
大 塚 美智子	手びねり象嵌平上絵菱餐カラー図組皿	広 谷 幸	陶器のあかり
加 藤 捷 一	絆	鎌 田 知 幸	平水指 翠
和 田 美奈子	春の野のはな	足 立 治 男	舞
阿 竹 晃 子	首 夏	保 田 繁 夫	練上壺
黒 川 富 子	母子相伝	萩 原 隆 雄	彩泥星群花器
関 秀 雄	大鉢 紅梅釉	角 村 治 城	朱の連珠
近 野 久 子	春 告	小 林 雅 子	～共に生きる～ 深海都市〔鯨 鯨〕
深 瀬 知嘉子	バク	島 村 信 一	クリスタル・ガラス (クレヨン of イタズラ)
長 島 秀 行	イミテーション バタフライ	一ノ瀬 道 子	雲 壤
石 綿 明 子	布目蜻蛉文陶管	増 田 かよ子	輝
多 田 眞 弓	撓 う	山 本 朝 一	愛理想と現実の狭間
久 光 宣 子	驟 雨	内 田 サク子	過去への追憶
村 主 武	日本連山 (朝と夕)	花 形 澄 子	晩 夏 1999
羽 鳥 恵 子	彩泥象嵌器	前 澤 秀 知	斑釉禾目平鉢
川 渕 まつ子	野草染 大賀蓮～古代の夢	高 橋 悟	焼きしめ組鉢

半 戸 信 一	DEPENDENT
相 原 健 作	太古からの風
佐 藤 雅 子	染付 キウイ
細 井 満智子	吹きガラス 青銅花器
兜 森 直 子	自然釉 茶碗
蓬 田 真	階 段
加 瀬 奨	花文壺
香 取 孝 茂	龍・雲文小鐘
甲 斐 雪 江	余 韻
市 原 富士子	ジュウリー
能 代 眞由美	土塊の鼓動
横 田 敦	彫文扁筒
渡 辺 由紀子	'99 SUMMER
松 井 敏 保	化粧壺
上 田 眞由美	多年草
佐 藤 京 子	夙花車
二 瓶 陽 子	野草染 五段引出し 華
大 槻 洋 介	滄 溟
大 槻 昌 子	銀花器「洗」
原 雅 憲	鉄釉縄文鉢
鈴 木 しづこ	「生」の兆し
北 川 智 浩	織 部 壺
野 中 利 之	青白磁壺
浜 山 春 香	八月の庭
佐 藤 智 子	刻 一 刻
安 藤 和 夫	楠造小篋
吉 岡 末 子	付け下げ「北の国から冬便り」
中 田 文	撫肩四方釜
内 野 勝 雄	麦 秋
佐 藤 嘉 人	灰釉大壺
安 藤 直 行	黒釉白斑鉢「星空」
大 野 恵 一	陶製 菓子器 鉄釉 木の葉文
山 本 静 枝	風を待つ
藤 村 文 乃	浮 遊
保 田 百合子	観 月
岩 井 尚 子	き も の

《 書 》

渋 谷 莊 江	漢 詩
神 藤 莊 松	漢詩（雪中至日）髡尊詩
野 頭 莊 雲	李良年詩九嶺
池 田 莊 春	韋員外家花樹歌
小 林 廣 洲	中山早行
白 鹿 光 子	秋
小 山 莊 雪	秋 意
木 下 滔 泉	登 樓
鈴 木 天 鳴	幽 居
成 田 敏 子	朝 顔
石 原 保 子	夕 暮
阿 部 馨 月	秋の風情
和 田 清 泉	この葉
市 川 春 聴	七 夕
村 上 湖 翠	沈佺期詩
杉 山 堯 俊	杜甫詩 高都護驄馬行
神 山 紅 雲	蘇 軾 詩
高 橋 翠 洋	周岐詩 詠 懷
田 端 蒼 秀	程鳴詩
道 脇 農 僊	李延是詩
庵 華 翠	華希閔詩
西 澤 憂	夜 起
古 谷 史 枝	西行のはなの歌を
古 田 泰 子	枕草子
池 上 好 子	良寛の歌
浅 間 静 江	かな
高 木 志 野	関戸本古今集（地）
柴 田 李 笙	趙亮 功詩
早 瀬 香 谷	禪 語
佐 藤 俊 恵	このさとに
内 田 恵 洋	あふことの
八十川 悦 子	をしかふす萩さく…その他 和歌七首
岡 本 蘇 心	恵慶法師の歌 八重葎繁れる宿の……
曾 根 美恵子	あざみの花
大 川 泰 仙	王維詩 答張五弟
谷 口 春 泉	王漁洋詩

平 松 千恵子 劉 英 詩
 飯 田 容 風 良 寛 詩
 佐 藤 柚 処 王漁洋詩三首
 村 松 桃 華 褚 載 詩
 植 松 龍 泉 周 啓 詩
 上 原 華 泉 王 漁 洋 詩
 谷 村 秀 雄 細 字 米 粒 (般若心經)(漢 詩)
 (肉眼真筆)ゴマ粒(北国の春)
 キビ粒(観音經)

米 澤 千恵子 春 霞
 綿 貫 吉 野 井上陽水の詩
 小 林 千 幸 西 双 版 納
 高 橋 秀 栄 他 火 考
 指 旗 登 美 河 童 と 蛙
 大 木 銀 子 鳶なく(三好達治詩)
 吉 田 萬 里 少女(高田敏子詩)
 佐 野 幸 代 石原八束の句
 池 上 百々子 赤木清香のうた
 山 本 清 子 田部井花子のうた
 佐 藤 淑 子 赤木清香のうた
 北 川 泰 青柳志解樹の句
 吉 田 多津江 新川和江 雨にぬれる花
 森 田 新 菜 三宅惟子のうた
 林 田 紀 子 田部井花子のうた
 松 原 隆 見付拓詩 封泥の伝言
 栃 木 郁 子 三宅惟子のうた
 堤 智 子 見付拓詩 さみしさつのる日に
 古 屋 恵美子 市原恭子の句
 中 山 政 子 谷川健一のうた
 土 屋 郁 英 田中冬二の詩 日本海
 篠 澤 玉 恵 久方寿満子の短歌
 林 富 久 八街少年院・生活詩集「若き木の詩」より
 福 本 泰 子 田中冬二の詩 炉辺
 上 村 仙 石 またある時は(近代詩文書)
 滝 澤 秀 石 杉山羚羊の句
 宮 崎 美智子 ヘッセ詩集より

眞 鍋 光 子 俳 句
 八 木 静 香 銀河鉄道9 9 9 橋本 淳の詩
 杉 森 伯 泉 晩秋の古都路を巡りて 自詠
 及 川 節 子 くるみ 星野富弘の詩
 三 谷 麗 月 自詠 夜桜をめでて
 相 馬 澄 月 草野心平の詩 月見草
 小 平 松 苑 佐藤惣之助 湖畔の宿
 茂 又 武 子 星野富弘の詩 里いも
 廣 川 心 齋 深尾 須磨子の詩 爐
 馬 場 虹 苑 俳句 有馬 るみ子句
 武 居 尚 琴 山村 順子の歌
 上 野 春 海 村山槐多の詩 薄き雨
 梅 田 昌 葉 俳句 椎橋 清翠句
 小 山 誠 一 北園克衛詩 薔薇の3時(抄)
 高 橋 玉 枝 野北 和義歌
 野 田 容 子 ほほえみ
 成 木 初 陶 淵 明 詩
 高須賀 鳳 蘭 杜甫詩二首 旅夜書懷 登岳陽樓
 小 池 青 芳 遠つ小島
 荒 砂 典 子 ふじが峰
 矢 島 初 江 百人一首
 宮 崎 葦 瑤 杜甫詩 奉觀嚴剎公廡事岷山沱江図十韻
 小 山 翠 謡 李 太 白 詞
 大 矢 重 雄 甲骨万葉がな百人一首 恋の歌 内33首
 竹 田 晃 堂 和 歌 四 首
 川 手 敬 湖 新古今和歌集の歌
 弦 間 秀 僊 和 歌 五 首
 山 口 利 雄 萬 葉 歌 四 首
 矢 野 龍 谷 近代詩文書「ゆずりは」(河井醉茗詩)
 片 山 静 苑 白 居 易
 伊 藤 青 光 雨
 伊 勢 青 京 うぐいす
 福 谷 青 怜 花の香を
 岩 松 芝 紅 み 吉 野
 吉 田 青 粹 わ日ぬ連八
 佐 藤 青 香 みわたせば

井 上 澄 江 大江山
 上 永 弘 子 新古今和歌集より
 筒 井 節 子 山家集より
 平 田 由 江 李白詩二首
 木 多 緑 舟 ものなべて
 中 川 由紀子 さくら花
 吉 田 靖 祥 百人一首より
 書 川 昌 子 花さそふ（仮名）
 齊 籐 知 樹 幽州夜飲 張說
 岡 部 真 明 杜甫詩（江上）
 中 村 雅 枝 送劉評事充朔方官 賦得征馬嘶
 石 坂 和 子 春夜喜雨
 土 川 淨 信 過香積寺
 道 上 万 里 喜達行在所
 杉 山 圭 子 清溪行 李白
 大 泉 鶯 州 空穂の詩を
 河 又 世津子 ささの葉は
 杉 野 光 子 美しき月
 塩 沢 鷺 州 ほととぎす
 森 俊 行 枕草子一節
 黒 田 抄 崑 李季衡詩
 浅 羽 紀代子 陶淵明詩
 岡 崎 香 芳 李商隱詩
 志 村 魯 崑 羅隱の詩
 中 里 健 哉 杜甫詩
 内 藤 慧 華 恋
 金 井 瑤 光 九重に
 岡 本 光 草 雨はれて
 笠 原 映 翠 母の歌
 宮 川 勝 美 李夢陽の詩
 新 井 青 谿 王昌齡詩
 山 本 紅 裳 高啓詩
 松 本 亘 正 曹子建詩
 中 村 清 園 風雨不己川流渺漫
 山 本 花 聲 唐 詩
 貝 原 積 眞 盧綸詩

神 東 進 洋 曾鞏詩 虞美人草
 鳥 居 節 葉 万葉歌（抄）
 神 東 榮 春 袁枚詩 白雲菴
 川 添 紅 琇 曹植詩 贈徐幹
 杉 森 玉 園 万葉歌（抄）
 松 山 和 香 韓愈詩 秋懷詩（其9.11）
 青 木 湘 堂 王維詩 哭殷遙二首
 横 山 蘭 葉 黃庭堅詩二首
 森 山 徑 陽 小大君集節臨
 金 子 静 勁 白居易詩
 岩 村 蘭 暎 良寛詩
 増 田 静 螢 張實居詩
 菅 井 穂 谷 方朝詩
 小 倉 寛 葉 陳文述詩
 島 田 玲 花 古風其12 李白詩
 坂 神 深 陽 贈鮮于伯機
 木 下 静 朝 李白詩
 山 野 景 翠 陶淵明
 塩 崎 晴 潮 蘇軾詩
 佐々木 蘭 華 杜甫詩二首
 長 澤 公 雅 宿玉陽山房
 飯 田 桃 夭 李郢詩
 竹 内 栖 涼 善才岫夜坐
 和 田 静 月 方朝詩 由臨川北道抵餘千山行
 岩 壁 勇 弘 立秋後夜起見明月
 木 村 晴 雲 吳蘭雪
 茶 木 静 萌 山中晚歸
 井 澤 洋 高 許繼詩 夜坐
 渡 辺 悟 竹 雨夜懷其年園居
 天 形 青 遥 蔣士銓詩
 池 田 青 柳 王維詩
 鈴 木 青 秀 王維詩
 橋 本 青 玉 王維詩
 長谷川 右 扇 劉基詩
 杉 浦 右 花 藍仁詩
 小 川 右 佳 常建詩

菊 島 右 雪 李思衍詩
 菱 田 右 紫 却東西門行
 東 山 右 徹 元好問詩
 松 尾 右 翠 陸游詩
 大江喜幸江 草ふかみ
 村 山 ち い 花のいろは
 明 石 清 子 古今和歌集

《写真》

鈴 木 喜久郎 盛 夏
 露 木 多鶴子 濃霧の牧場
 原 進 時 (3枚組)
 寺 岡 文 子 厳寒の峰々
 小 島 信 是 落陽の頃
 金 森 大 輔 町工場の憂愁
 阿 部 トミ子 炭 焼 (3)
 大 山 千恵子 朝霧の里
 宇佐美 淳 一 紅しだれ桜
 中 志 信 4.5
 長 澤 秀 美 山巔への道
 山 田 勝 巳 時空あえか
 落 合 真 二 A S A N O
 仲 俣 勝 子 子守り I. II (2枚組)
 高 橋 康 資 天空へ (2枚組)
 甲 良 まり子 紅葉ライン
 市 川 正 パワー全開
 和 田 實 タンジェの屋上
 石 田 慎 一 画帖より
 新 井 完 夫 鶴 合 (3枚組)
 古 郡 和 敏 夢 幻 (3枚組)
 久士目 毅 月 大接近
 高 木 英 明 世紀末の予兆
 内 田 幸 夫 厳 冬
 茂 原 絢 子 虹色の旋律
 平 野 定 夫 屋根裏の鮭
 志 村 欣 佑 砂丘点照
 船 山 恵美代 残 光
 石 川 昭 福は内
 小 林 義 雄 暁の金精峠
 小 野 望 春爛漫
 松 葉 良 知 複 眼
 後 藤 貞 則 古代石像 (2枚組)
 小 林 重 光 仲良し
 望 月 勝 美 湖畔にて
 佐 藤 克 彦 視 点

太田代重代	射る (3枚組)	萩谷芳美	飛翔
龍造寺文昭	梅雨の晴れ間	稲葉末雄	ハンターカワセミ
室井博	光の切り絵「今宵一刻」	今井稔	今どきの学生 (2枚組)
高梨文夫	花嫁付添 (3枚組)	佐瀬勇	石仏探勝 (4枚組)
樋口音治	九月の富士	川村利雄	光彩 (2枚組)
谷美佐男	ロープリング (5枚組)	本間英夫	尾瀬ー霊光 (3枚組)
渡辺治男	古木の情景 (3枚組)	西村栄八	闘魂 (3枚組)
川久保欽司	青春躍動 (2枚組)	柴田恒司	鎮江・農村地帯 (3枚組)
木内敏行	前兆 (3枚組)	鈴木水子	白藤花
長谷川雄二	招かれざる客 (カトマンズ)	秋本富男	運星
伊藤博	星空の舞 (4枚組)	今野良一	仲間
清野義雄	別れの日 (3枚組)	山内ミヨ子	漁村
矢花一弘	あるコンタクト (3枚組)	澤田秀雄	改装中 B
佐野文隆	高原の柳らん	上條精一郎	早春の苗床
吉田喜久	静秋	井上喜和子	品さだめ
田中夏	から松の紅葉	飯野聡	暮れゆく横浜港
山崎廣	浅草奥山再現 (3枚組)	吉田陽子	アザラシ (3枚組)
栗屋五郎	仲良し	福居ヒロミ	放課後
渡辺富司	街燈のある町	牛田恵美子	雨霧
山本雄二	クロイトトンボの連結産卵	高野二三子	いとし子たち
酒井いちろう	光の中のサーファー	北原実	終彩
津田祥夫	バージンロード	西尾絢子	峻嶺暮秋 (2枚組)
笹本宗晴	新緑	旭山強	秋冬の梢
鈴木喜三郎	惜春		
野村節弥	不安 (2枚組)		
大野曠太郎	光景1999 (2枚組)		
和田幸夫	城塞都市ドープロブニク		
石黒昭	Lung. d. archibasieri		
小澤奉信	光彩		
長瀬浩明	色相の構成 (3枚組)		
君塚宣良	3:00 pm		
越川敏子	編む (2枚組)		
小島和子	挑戦		
渡部満	寒い朝 (3枚組)		
中間知利	未来		
大畑礼典	荒れ模様		

審査経過

《工芸》

工芸という言葉は、明治になってから、現在のような意味で用いられるようになった。しかし、装飾美術、応用美術、手芸などという意味も混在し、概念は拡大した。純粹芸術としての絵画、彫刻などと、本来は同じ芸術だった。むしろ、ものを作るという造形芸術からみると、より本質的な意識をもっているかもしれない。造形芸術には、つねに独創力（オリジナリティ）と想像力（イマジネーション）が要求される。いいかえれば、新鮮な作品を独自に制作し、これからの美意識を礎いていくことだろう。その可能性を、この県美術展にも求めていく。一方では、ものを作るという技術も必要である。工芸の審査にあたってはそれぞれの審査員（6名）がもった基本的な姿勢は同じであった。今回の応募作品は253点、199名であった。20歳代の若い作家から、80歳代の高齢者までと年齢の幅は広い。いろいろな素材、アイディアによる作品があった。ただ、例年に較べ七宝、鎌倉彫りの作品が少ない。また、プロを志向する人たちよりも、生涯の趣味として制作をつづけている作家たちが多かったようだ。そのためか、飛び抜けて優れた作品があまりなかった。寂しいことである。審査は、最初、20票ずつをもって入選の作品を推せんする。その結果、約115点があがる。そこで、全審査員による1点ずつの討議が行われ、確認されていく。全員の同意により入選117点が決定した。賞の決定は、入選作品すべてを対象に改めて投票する。各自10票をもって推せん。再び投票により作品を絞る。投票数により順位を決めながら、

討議を重ね、大賞以下、九つの賞を決定した。受賞作品の印象を簡単にのべておく。

大賞、齋藤龍也、「白化粧象嵌花器」（陶芸）。昨年も出品し、受賞していた。大振りのフォルムが伸びやかで、デザインはシンプルだ。均勢のとれた静謐な美しさをもつ。準大賞。北垣幾子「すすきが原」（刺繍）。丁寧な仕事である。広漠たる野に詩心がこめられたいる。これまでも数回、入選している常連の作家。特選4名。小田中藍、「やまびこ」（染織）。友禅染めによる明快なデザイン。若さにあふれた躍動がみられた。一法師和晃、「彩」（陶芸）。艶なる曲線をもった大胆なフォルム。現代的な新鮮さが感じられる。根岸律子、「青と緑の中に」（染織）。繊細な色彩のハーモニーのなかに輝きがただよう。リズムカルな動きがみえてくる。坂本采季香、「刻の軌跡」（皮草）。白色によるモダンな構成。錯綜するような時のイメージを象徴的に編み込むようだ。美術奨学会賞2名。古賀盛嗣、「ミストラル」（染織）。シルク・スクリーンによるプリント。軽やかな素材によって、舞い踊るような明るさをもつ。大山みつ、「四段引し」（漆芸）。デザインされた大柄の花に逞みしさがある。バランスが配慮される。県議会議長賞。亀井知子、「クレオパトラ」（ジュリー）。華麗な夢がほのかに浮かびあがる。技術的にも優れている。受賞されなかった作品にも、見るべきものが多かった。今後とも頑張っていたきたい。

（柳生不二雄）

《書》

本年の県美術展開催に当り、2月5日部会が開かれた。

- 1 第34回の事業報告
- 2 平成11年度の事業計画及び日程
- 3 審査員の人選及び審査の方式について
- 4 実行委員について
- 5 その他

となっている。その結果別表(省略)のように決定した。中でも実行委員の廃止には書部門として疑義が持たれたが、他部門と協調する建前上本年から廃止ということに決定した。たまたま7月15日～21日書部門の招待作家展が開催され、審査員・実行委員経験者が集合するチャンスがあり、期せずしてこの問題について討議することとなった。こうしたことは今までにないチャンスであり、県美術展に対していかに関心が深く、愛情を持っているかが知られた。ここから有力作家が輩出することを望んでいるグループが存在し、グループを超えて美術を愛し、向上させ、発展させる層の育成に対しての熱意の表れとして心強い行動である。

本県の書部門は、漢字、かな、近代詩文書の三部門より成っている。ここ数年漢字部門は出品数が固定化しつつあるやに見えたが、本年は新しい熱気が感じられ、本来の漢字王国の面目躍如ともいえる出品傾向に向かいつつあることは心強い。かな部門は出品形体が多様化し出品層が各地にわたって激増しつつあることが心強い。近代詩文書部門

は安定した出品層になっているが、もう少し幅が拡大してもよいのではないかと期待が持てる。入賞作品について感想を述べる。

大賞 稲葉竹苑（漢字）、入選5回にしてこの作を生んだということは、余程の実力者であろう。空間の動き大きく素朴な用筆の間に華麗な用筆も間々まじえている。

準大賞、齋田和子（かな、タテ4行）、地味な用筆であるが、それだけ深い落ち着きが見られる。運筆に余裕がある。

特選、大木明子（近代詩文書）、純白の紙に濃墨でダイナミックに書き写された近代感覚豊かな覇気の横溢した作である。

特選、牧野幽峰（漢字）、72歳の高齢を感じさせない緊張感と開放感と交互に現出した華麗な作。

特選、加藤州処（漢字）、若々しい気宇の開暢した作である。

特選、鈴木白鷺（かな）、明快な切れ味のよい用筆で爽やかさを感じる。

美術奨学会賞、安部梅陽（漢字）、14回入選という大記録の保持者である。こうした好事家の存在が書の発展に寄与されるのであろう。

美術奨学会賞、住本霞城（かな）、流れるようなスムーズな筆致で女性らしい雰囲気をつたえている。

（竹田悦堂）

《写真》

準大賞の中谷晴男「峠の人々」（3枚組）は大賞にもひけをとらぬ重厚な秀作で、モノクローム特有のすぐれた焼き込み効果もあって、ネパール、ポカラの働く人々のリアリティが濃密にふかぶかと刻まれた。中央のクローズアップの男2人を柱にした緊密な構成力はずば抜けていて高く評価できる。

入選の岩崎卓也「風の小径」は、丘の一本道に吹き抜けていくそよ風を心憎いまでに繊細に描き上げた。そよ草の絶妙なぼかし加減が快い抒情を奏でている。（岡井耀毅）

特選・行方（ゆくえ）3枚組鈴木良鰐、蛇、海亀といった異形の被写体を複数重ね合せ、独自のイメージを視覚化することで、想像力をかき立てるバーチャルな世界を描き出した。計算されたアンダー気味の画調も、おどろおどろしたテーマとよく合って重量感のある作品に仕上がった。ここでは3枚に組んで見せているが重複したところもあり、1枚に凝縮させたほうが完成度の高いものになったろう。（江成常夫）

「天龍進水」加藤心一 スケールの雄大な場面に出会うと、撮影ポジションに迷うものだ、チャンスは一回しかないからだ。その点この作品は的確な場所が選定され、進水式の華々しい瞬間を端的に把握され成功に結びついた。構成の良さが、魅力あるものにしている。「猫参上」高木太三郎 雨模様の庭、笥のまわりに散った花びらが美しく、静寂な佇まいが漂う。突然の猫出現でまったく様相を一変した。この面白さを逸早く察知したことによって、平凡な庭も新鮮なものに視野を拡げ、見る人を引きつけひと味違ったものにしている。（常盤とよ子）

奨学会賞の「動物賛歌」。バク、象、熊の表情をとらえたモノクロの3枚組。中でも象の写真が目をついた。子象の鼻に親象の鼻がからむ構図。親象は鼻だけの登場だが、いとおむような鼻の絡み合いと、小象のうれしそうな顔としぐさが親子の愛情を巧みに表現して好感がもてる。とかく、動物写真はカラーで写したくなる材料だが、動物がもつ皮膚の質感をハイキーな仕上げで表現したことが、作品をさわやかなものにした。惜しむらくは、バクにもう少し表情があれば、なおよかった。（岩崎隆久）

金鎮寿氏の《メエザルテ》は、やや保守的な本展応募者のなかの「例外」として評価された。フェンス、灌木の花々、工事中のサインといったありふれた街路の点景に着眼しているが、当の着眼は定着せず色彩の揺動のなかに溶け込む。このカラーの浅薄な曖昧さは、白黒写真がいかに精巧に世界を捉えても同時に懐しさを帯びてしまう場合と

比べて、「風景のいま」を表すのに効果的だ。願わくば曖昧さのなかであれ、然るべき強さを露出せよ！（倉石信乃）

特選「女瞳私」紅

福田幸子さんは女性ポートレート専攻している作家で「女瞳私」をテーマとして創作活動している。女瞳私「紅」くれないの作品はエフグラの写真とノーマルな写真三枚を重ねたコンピューターによる合成した斬新な技法を生かした作品である。

特選「誕生」

武山敬子さんの「誕生」作品、フクロの子供を捉らえた大変珍しい場面をとらえている。作者によると四月頃、富士山の山麓で生まれたばかりのフクロが空調の中にいる三羽の生態をライトを照らして捉えた貴重な作品である。もう一枚は、木の上にいる一羽のフクロが何とも言えぬ可愛い。二枚組写真で表現された秀作である。（浜口タカシ）

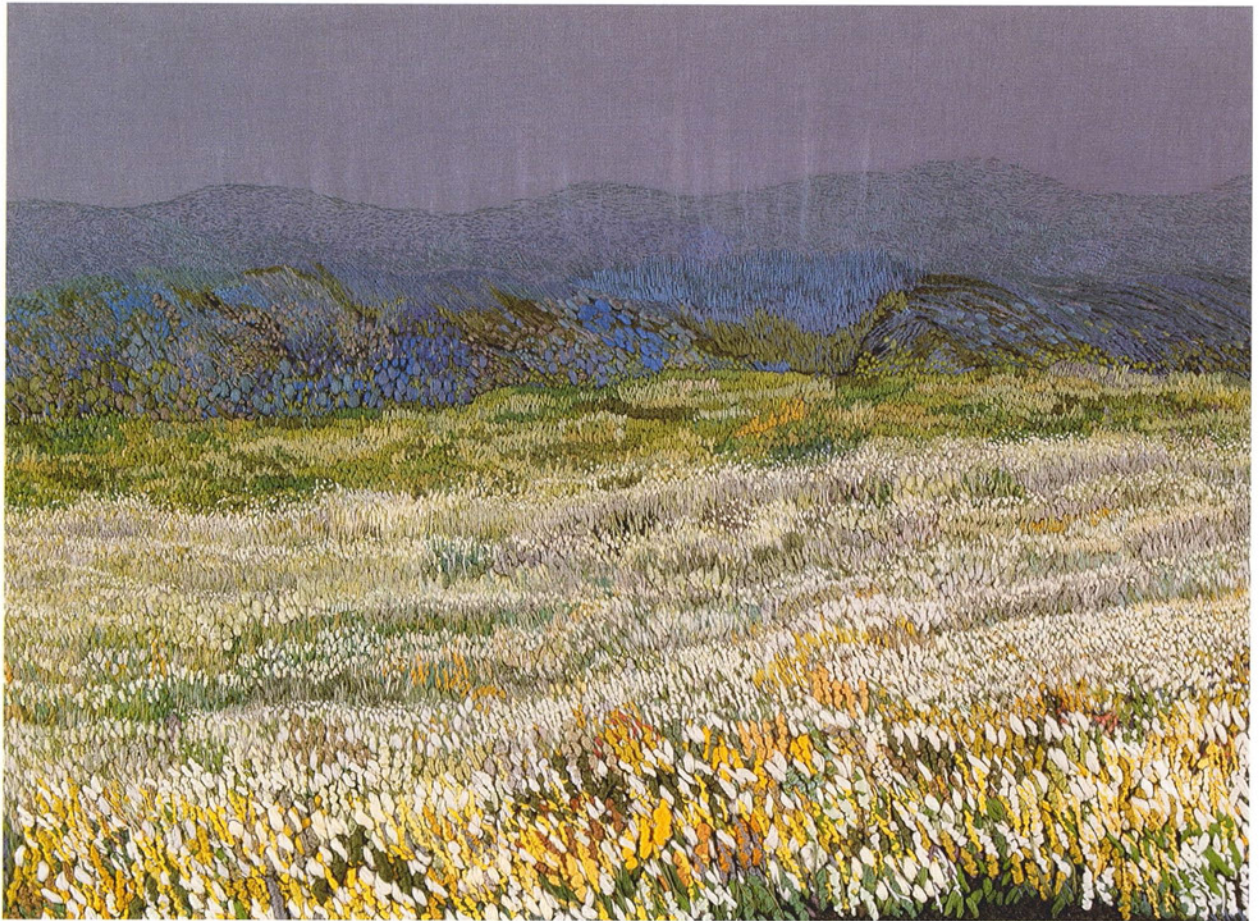
総評

本年度出品状況は、155人、492点。昨年より31人、116点減少。応募者年齢構成は、中高年令層が中心。性別では、ここ数年女性の応募が増加しているとはいえ、男性優位をいまだもっている。応募作品は、手段として35mmライカサイズの小型カメラによるものが90数%以上を占め、内容は日常生活、祭りやイベント時の人物スナップショット。風景動植物を対象としたネイチャー。モノ等のフレーシング等による抽象化された造型写真。等々従来の応募展、コンテスト等にもみられる表現コードの枠をこえる新しい芽は少ない。ただ、組写真による作品の上位入賞率が高いこと。事実、大賞〈午後の街〉は、林京子さんから、組写真は増加の傾向がある。また、この形式は、多様な表現を可能にすることもあり、新しい試みの作品が見られた。特に、この傾向は新しい世代、特に女性たちによくみられ、今後新しい参加が期待される。一枚写真と組写真の形式の違いは、表現内容の大きな差異があり、これを同一組上で批することが困難と個人的には考えているが、今後運営上の検討が必要ではないかと思われる。また、本年度は、運営上の大きな変革（郵送、宅配等による受付可）を試みたにもかかわらず昨年の数を人数、応募数ともに越えることがなかったことの分析を急ぐ必要を感じず。総人口824万人の本県、当然写真愛好家も膨大な数にのぼると思われるにもかかわらず、応募者の固定化、選別化が生じてきているようだ。写真表現が新しい世代、特に二十代の女性たちに興味を持って迎えられつつある現状があるにもかかわらず、これら世代の参加が少ないのは、さみしい限り。今後、さらに全世代の県民参加の応募展として、さらなる質、量の向上を願ってやまない。（土田ヒロミ）



【大 賞】工芸「白化粧象嵌花器」齋藤 龍也

略歴 1944ー群馬県前橋市に生まれる
1986ー横浜陶芸学園で陶芸を学ぶ
1995ー横浜市に築窯
1996ー第9回全日本アマチュア陶芸コンテスト 最優秀賞
第32回神奈川県美術展 特選
グループ展 神奈川県民ホールギャラリー
1998ー第34回神奈川県美術展 特選
グループ展 港南区民文化センターギャラリー



【準大賞】工芸「すずきが原」北垣 幾子

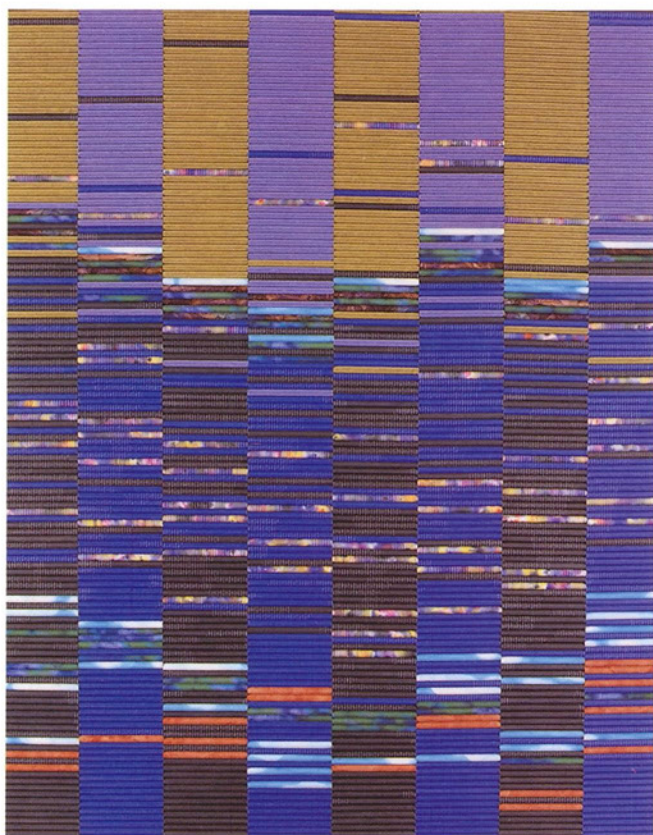
略歴 1960ー跡見学園短期大学卒業
1987ー全国手工芸コンクールで優秀賞
1990ーユザワヤ創作大賞展(〜'97)
1993ー第29回神奈川県美術展('94、'95、'97)
1996ー奨励展 相鉄ギャラリー('99)
1997ー「暮らしの手帖66号」誌上展
個展3回、2人展1回、教室展2回



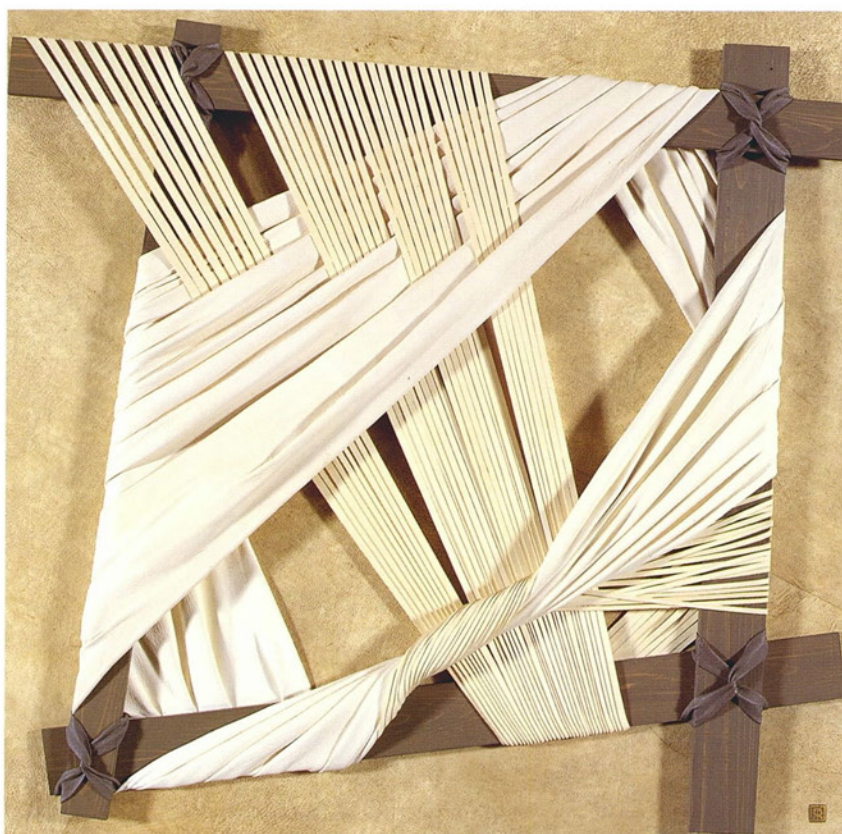
【特 選】工芸「やまびこ」小田中 藍



【特 選】工芸「 彩 」一法師 和晃



【特 選】工芸「青と緑の中に」根岸 律子



【特 選】工芸「刻の軌蹟」坂本 采季香



【美術奨学会賞】工芸「ミストラル」古賀 盛嗣



【美術奨学会賞】工芸「四段引出し」大山 みつ



【県議会議長賞】工芸「クレオパトラ」亀井 知子



【大 賞】書「観 雨」稲葉 竹苑

- 略歴 1937ー静岡県伊東市に生まれる
 1965ー書海社 師大内枝翠
 1977ー鶴心書道会 師山田松鶴（'93年退会）
 1988ー東方書道院展 準同人
 1994ー心龍会 師村越龍川
 第30回神奈川県美術展 初入選（以後毎年入選）
 1995ー産経国際書展 審査会員
 1999ー第16回読売書法展 初入選

雲が長遠山をも所包みは
 山が都るなり成りては
 空も通る風も通る
 山も通る風も通る

【準大賞】書「秋の夕暮」齋田 和子

略歴 1941—横浜に生まれる
 1964—故郷愛泉に漢字師事
 1992—堤雅胤に仮名師事
 1993—横浜書作展で朝日新聞社賞
 1996—読売書法展入選
 水穂展受賞

吳城聲絕天
 空雲閣能細
 門外滿車馬
 亦須生綠苔
 傳有烏程酒
 勸君
 千萬壽
 金陵漢武
 錦樓上
 曉望晴
 宮飲花
 東方日
 名彼
 天光
 老
 時此
 故非
 馳素
 白雲
 千重
 化玉
 井土
 從
 馳作
 土
 千載
 果堪
 綠山
 年
 在
 背負
 外
 稱
 神
 仙
 那
 歸
 頑
 甲
 滑
 醒
 延
 李長吉詩
 州
 處

【特選】書「弘舞歌詞」加藤 州処

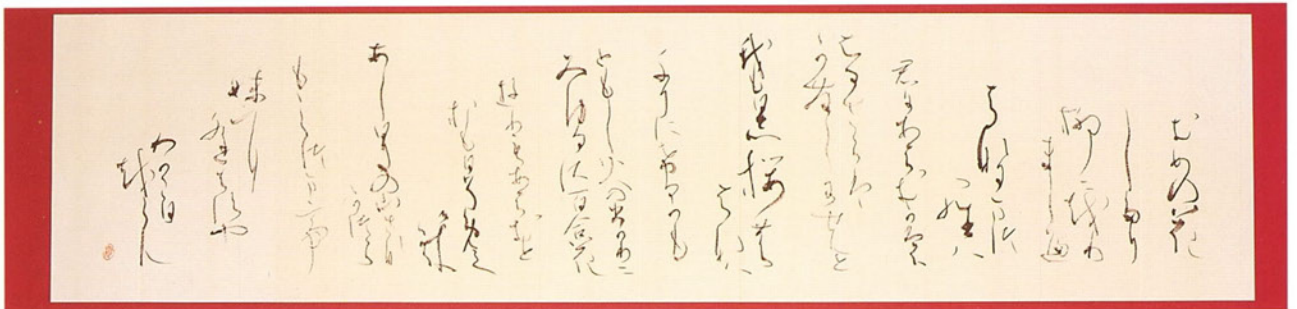
釣瓶に
 柳子
 あり
 朝餉
 見付拓詩
 朝餉

【特選】書 見付拓詩「朝餉」大木 明子

李白詩
畫堂志

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

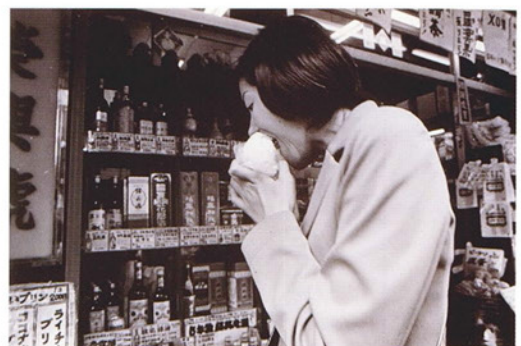
【特選】書「夏のしるし」鈴木 白鷺



【美術奨学会賞】書「和歌四首(万葉集より)」住本 霞城

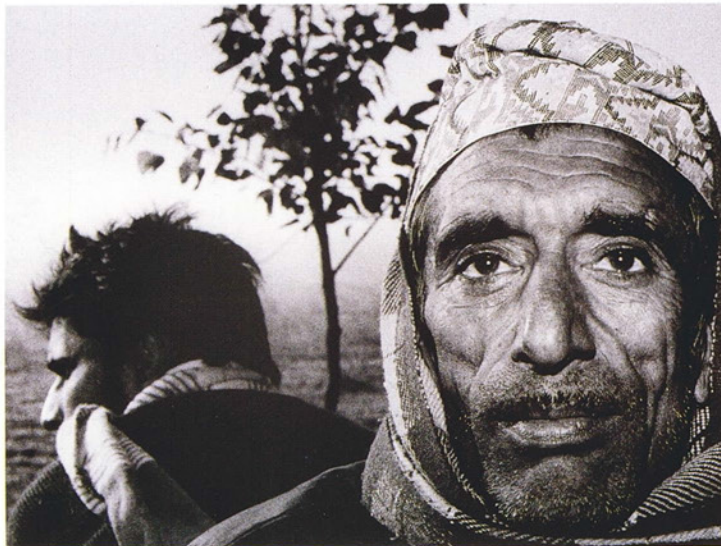


【美術奨学会賞】書「汪洪度詩」安部 梅陽



【大 賞】写真「午後の街」林 京子

略歴 1962ー千葉県松戸市に生まれる
 1993ーこの頃より写真を始める
 1994ー第45回神奈川県勤労者美術展で横浜市長賞
 1997ー第33回神奈川県美術展で美術奨学会賞
 1998ー東京写真月間'98女性だけの写真展で入賞



【準大賞】写真「峠の人々ーボカラー」中谷 晴男

略歴 1940ー京都市に生まれる
同志社大学法学部卒業
1980ー写真家杵島隆に師事、蘭花、ドキュメンタリーを
テーマとする

1996ー「蘭・乱・ラン」アートグラフ(銀座)
個展 1998ー「シヴァ神の子ら」フジフォトサロン(有楽町)

1991ー世界らん展 日本大賞 写真部門グランプリ
受賞歴 世界らん展 日本大賞 美術工芸部門優秀賞

1994ー蘭友会蘭展で杵島隆賞

1995ー第31回神奈川県美術展 特選

1996ー第32回神奈川県美術展 大賞

現在 日本写真作家協会会員/日本ネパール協会会員/
ペンタックスファミリー会員





【特 選】写真「風の小径」岩崎 卓也



【特 選】写真「ミエザルテ」金 鎮寿

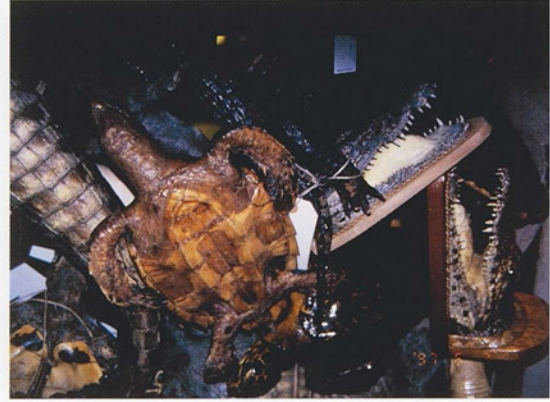
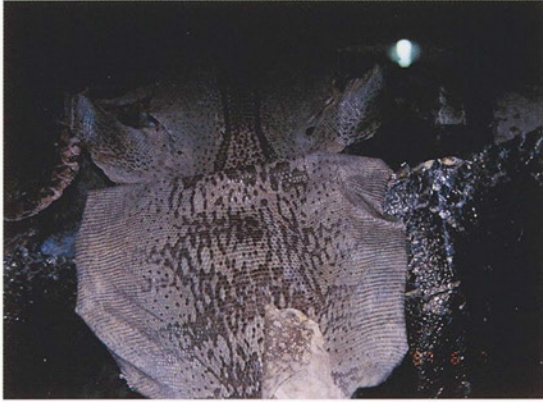




【特 選】写真「天龍進水」加藤 心一



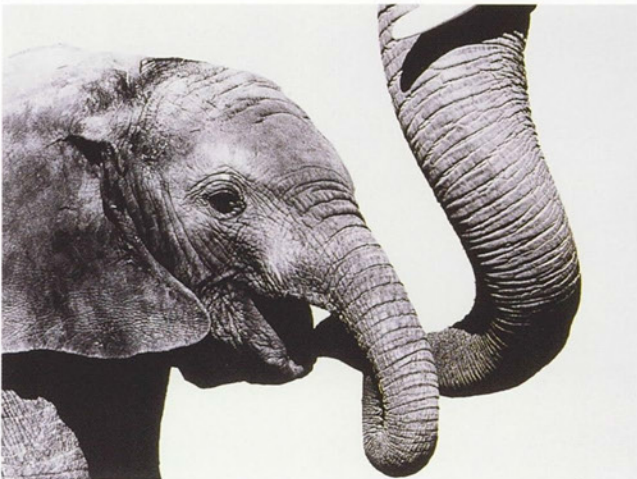
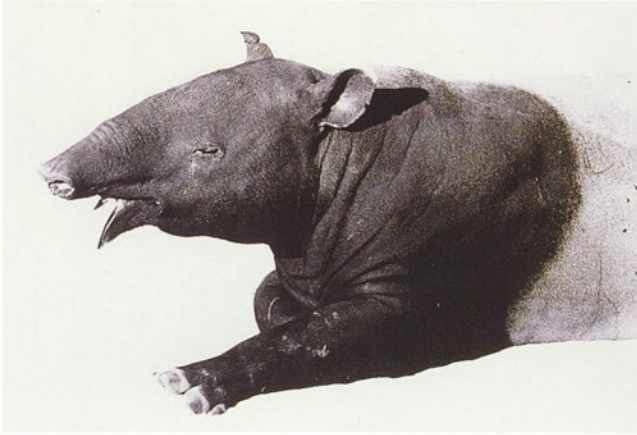
【特 選】写真「誕生（2-1）（2-2）」武山 敬子



【特 選】写真「行方」鈴木 良



【特 選】写真「女 瞳 私」^{おんな どう し ぐらゐ}紅 福田 幸子



【美術奨学会賞】写真「動物賛歌」榊原 俊寿



【美術奨学会賞】写真「猫参上」高木 太三郎

2期展

平面 立体

受賞作品目録

《平面 立体》	大	賞	川 田 祐 子	相模原市	BIO-PANORAMA II
	準 大	賞	加 藤 敏 夫	鎌倉市	円 空
	準 大	賞	河 合 勇 作	横浜市	ISLAND
	特	選	西 川 美智子	相模原市	9 人
	特	選	鈴 木 桃 子	狹山市	細胞-歓喜-
	特	選	小 林 秀 幹	八王子市	凜
	特	選	生 越 麻紀子	逗子市	座席の人びと
	県立近代美術館賞		佐 藤 潔	横浜市	顕 現
	美術奨学会賞		菅 沼 稔	相模原市	PARAPHRASE・101
	はまぎん財団賞		瀬 尾 きみ子	横浜市	時間・移行-9904

※美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新進作家の発掘・育成を目的として設立された神奈川県美術奨学会から給付される賞です。
 ※はまぎん財団賞とは、県内の美術の振興と新進作家の発掘・育成を目的としてはまぎん産業文化振興財団から給付される賞です。
 ※市町名は現住所です。

入選作品目録

《 平面 》

鈴木 紀久栄	パンドラ	松野 宏美	死と生誕
湯川 列晟	通過と閉塞Ⅲ	山本 重隆	MOVING CREATURES (OUT OF THE GROUND)
犬飼 三千子	COSMOS (99-b)		
前田 啓子	とりん '99a	芥川 良子	生
松澤 五男	失なわれた風景	菅野 倫子	創作の視点で
横山 将二	SPACE '99作品36	芳永 彩夏	TORSO-1999-透明な水-
遠藤 環	ヴェネチア (サン・マルコ広場だあー)	戸田 重喜	うつろう形
渡辺 幸子	過ぎ去りし日Ⅱ, '99	右近 多恵子	地平へ THE BLESS (I)
中村 啓子	もう一つの時間 (Ⅲ)	大塚 とみ子	カオス表現 ゆらぎⅢ
正木 淑子	何処へ I	大籠 弘子	作品Ⅱ
久保 恵子	風の詩	岸上 嘉世子	RŌEI 漏洩 '99-1
茂野 生世	森にふく風	丸谷 洋子	LIFE 青の刻
秀島 育子	ひと・人・女 (I)	金子 恒雄	瞬 B
永野 耀子	ブロッコリーの花が咲いた	伊藤 貴祥	LIFE
豊崎 旺子	行進	玉城 恭子	A CLOD OF EARTH
田中 洋子	REQUIEM AGNUS DEI (平和の讃歌)	鈴木 理美子	爛漫 (らんまん)
壽松木 忠勝	鎮魂 I	川城 夏未	BALANCE 1999 No.2
今井 李々子	無題 1999-II	亀山 治代	個人の時間
山下 暁子	風景	田中 信男	二人 (A)
山手 政男	緑のスペースⅡ	藤沢 京子	群像 (碑)
沢田 滋野	MUREⅡ	田嶋 佳子	始業の川柳
藤崎 淳子	静けさの向こうには…	樋口 京子	1999-響 I
宮崎 文子	AND PRETEND NOT TO SEE	勝山 治実	壁
後藤 公一	地象・天象	井伊 泰子	朴訥 No.4
大矢 雅章	霏 霏Ⅱ	清水 早苗	黄昏
井手 菜穂	IMAGINEⅡ	澤岡 泰子	THE UNIVERSE-1
杉本 美子	己から他へよみがえりをはらむもの オナモミ	小南 典子	天球の歌を聴く
		藤井 清子	蟹座001
村山 あや	10分くらい考える	青木 藻美	カタルシス
山川 靖夫	TORSO 8	ササキユウコ	LANGUAGE I
浅倉 寛	航跡 (I)	フジワラアッコ	遠い日 (Ⅲ)
関 迪子	コンポジション「白」	花沢 真由美	WILD FLOWERS
滋田 明	街の水族館 A	平田 清隆	作品 (990313-16)
天野 悦子	午睡	中山 智介	白い雲
佐藤 靖子	WOMAN・WOMAN	角森 昭収	PLATE
久保 敬子	ミ・ファミリア	武田 律子	「在」作品9

《立体》

大 工 公 司	PAINT 2
広 野 正	雅正の舞い
渡 辺 勇	生命体
久保田 晃 二	樹のある風景 (2)
鵜 飼 しをり	花のころ II
荻 莊 寿 子	鳥がいて、鳥がいる
皆 藤 由美子	解かれゆく記憶の配列
加 藤 ひろみ	2×××年3月
香 月 由紀子	ハピネス
伊 藤 彰 規	LAND III
田 口 弘 勝	付近の風景 そのIII
安 田 文 夫	LIVE IN SHONAN
堀 岡 正 子	樹の譜
遠 藤 千代子	ネットワーク
嶽 喜 代 子	誕生
宇 野 圭 一	草の中
塩 路 明 子	息づく
内 海 聖 史	彼の背景
西 本 正 憲	HORIZON-VERTICAL No-47
荒 井 由紀子	99-07-25
高 畠 裕 幸	影像 XV
押 田 陽 子	飄III
池 上 あつこ	海の一日 (B)
佐 藤 英 行	黄 兆
川 北 美世子	蒼い時
小 川 彩 香	秋の湿原
竹 山 晶	勇気ある前進
千々岩 修	跡

阿 部 佳 明	空間測定儀一手詰まりの覇権一
栗 木 道 夫	存在の幻相
安 室 三 郎	BUBBLE (バブル)
横 山 飛 鳥	不可侵域 (茶の心)
長 島 秀 行	次元“0”の砂
飯 島 浩 二	時代の狭間を ただ犬は尾を振る
諸 熊 仁 志	LIFE RING
渡 邊 盈	乾屎 極
山 本 秀 明	内層
中 田 ナオト	UNTITLED
水 島 茂	黒の水
辻 眞由美	STILL
高須賀 昌志	よりそうかたち〈白と黄〉
三 沢 厚 彦	コロイドトンプ (TRANSFORM)

審査経過

《平面 立体》

この展覧会には、平面と立体と、あわせて495点の作品が集まった。その内、入選作は122点、例年に変わらない量的な盛況を呈したということのようだ。

審査にはじめて参加した。その立場から見て、質的にどうだったか、感想をまとめる役目をおわされた。審査会場で耳にした他の審査員の批評も加味しながらだが、僕の感じたことを大雑把に書きとめてみる。

入選と落選のえりわけ判断は、技術が優れているかどうか、その技術がどう使いこなされているのか、といった点に集まることが多かった気がする。入念で洗練された仕上がりに舌を巻くという場面もあって、大賞や準大賞などは、そこから拾われた。

しかし、評価の基準が技術の優劣にとどまるかぎり、当然ながら、不満が生じる。何が表現の対象であって、何のために技術が用いられているのか、要するに、技術よりも中身がほしいのだが、中身は行方不明になっていて、抛り所なく、技術を問うことに審査の主眼がすり変わってしまったと思えないではなかった。

技術に深入りすると、マンネリズムをまねく。装飾になる。技術追求のために中身が用いられた結果である。これをおもしろいと思っただけはいけない。虚しいことである。どうしてこうなるのだろうか。どうやら、この県展に限ったこ

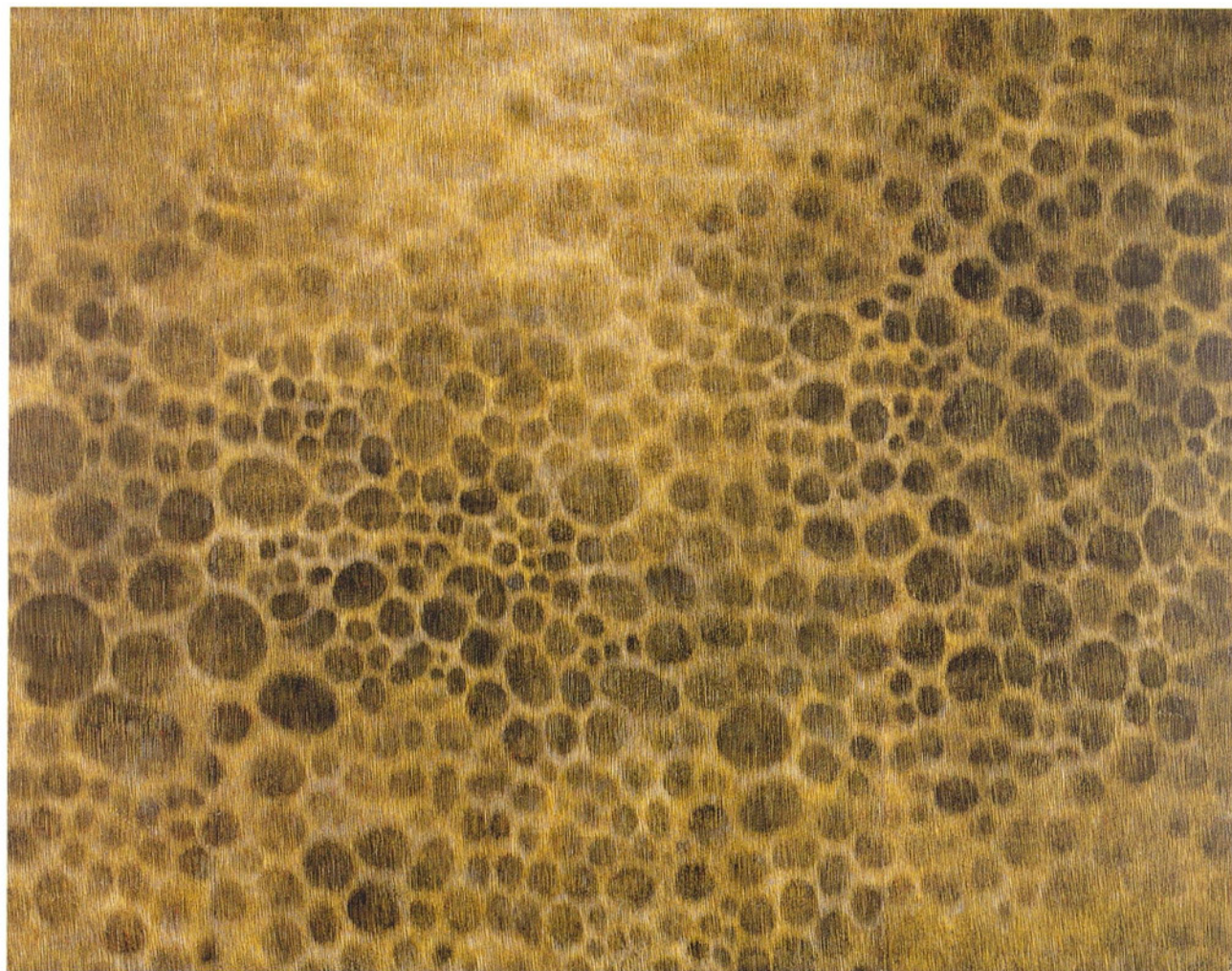
とでない。今の日本の美術の全体が技術栽培で実をつけているところなきにしもあらずだから、県展もこうなる。

中身がなくて技術でできている美術、言い足すと、技術そのものが中身になってしまっている美術、これは、やはり、たとえばの一例、人のなまな接触を欠いて、人の対話をコンピューターが取り仕切りだしたため、対話過剰の狂騒時代になっている今の社会の構造といったものを、いかにも楽天的に、美術が組み入れているといってもいいのだろう。

一つの制作に没入して、自分を忘れ、時を忘れ、無我夢中の状態に突入することもありえるのが、常に変わらない美術のありがたさの一端であって、その点では、技術に夢中でかまわないものの、しかし、そういうありがたさ自体が、何だか、今は、人と向きあうよりコンピューター相手の方が、自由でもあり、おもしろくもあり、没我没入していつてしまうという人の、現実感のすりかえと同じだと思えて、閉塞的な社会のなかに、なお閉塞して美術が埋没していつている様子でもあるかのごとく見える。

こんなふうを書くことも上滑りにすぎない。美術というのは何なのだろうか。だんだんと美の術にだけになってしまって、人が見えない。県展とつきあっても、そう思えて、仕方なかった。

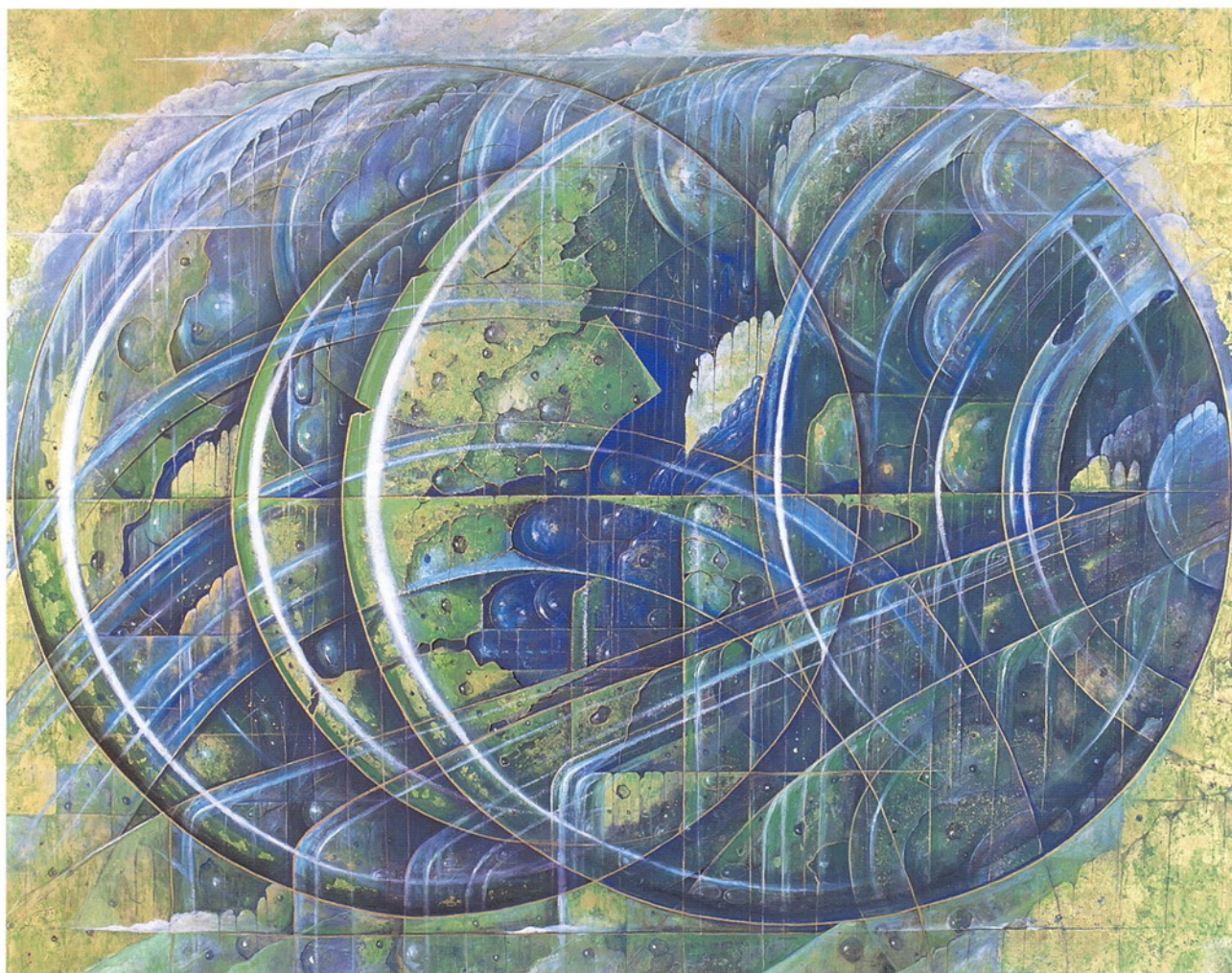
原田光（神奈川県立近代美術館学芸員）



【大 賞】平面「BIO-PANORAMA II」川田 祐子

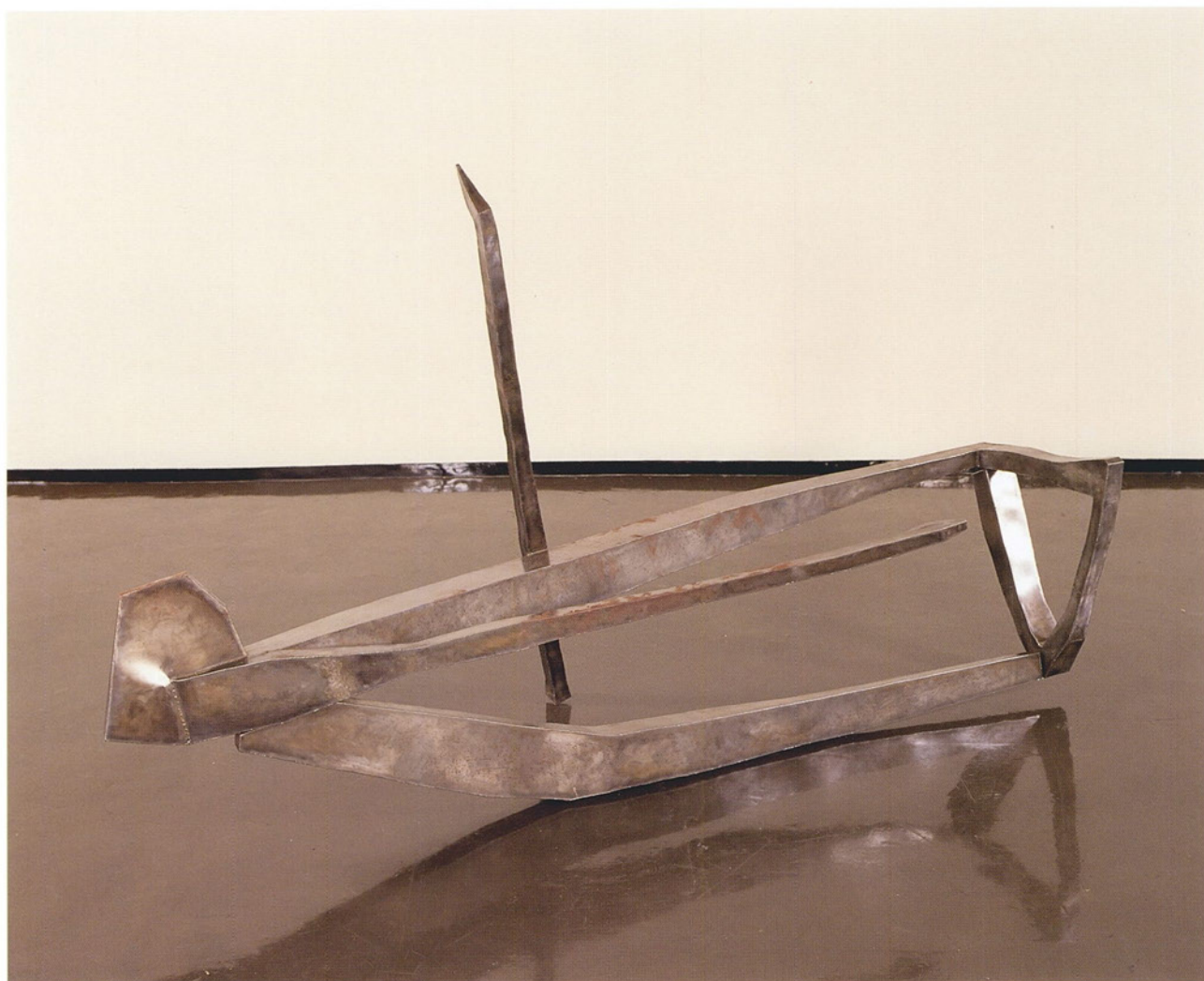
略歴 1962—東京都小金井市に生まれる
 1986～87 旧西ドイツ留学
 1988—女子美術大学芸術学部芸術学科造形学専攻卒業
 1991—横浜国立大学大学院教育学研究科美術研究修了
 個展 1995—三鷹市美術ギャラリー
 1996—西瓜糖／フクヤマ画廊／大気堂画廊
 1997—銀座小野画廊
 1998—ギャラリー人／すどう美術館
 1999—ギャラリー B-ONE／ギャラリー人

グループ展 1997—フクヤマ画廊4人展
 1998—すどう美術館コレクション展
 ギャラリー人 Pre-Opening Exhibition
 若き画家からのメッセージ'98 すどう美術館
 第3回アート公募'99
 第34回神奈川県美術展
 1999—相模原ゆかりの作家たち展 相模原市民ギャラリー
 『パブリック・アート』への提言 スペース・カレイド



【準大賞】平面「円空」加藤 敏夫

略歴 1932—山形県上市市に生まれる
 1958—東京芸術大学日本画科卒業
 1970—第7回神奈川県美術展で松屋賞
 1971—第8回神奈川県美術展で県立近代美術館賞
 1975—第12回神奈川県美術展で美術奨学会賞
 1981—第18回神奈川県美術展で県民ホール買い上げ
 1991—第29回神奈川県美術展で特選
 1999—第35回神奈川県美術展で準大賞
 横浜三越で個展



【準大賞】立体「ISLAND」河合 勇作

略歴 1964ー神奈川県に生まれる
 1989ー東京芸術大学美術学部彫刻科卒業
 1991ー東京芸術大学美術学部大学院研究科修了
 1997～98 財ボロー美術財団助成によりアメリカ滞在
 個展 1994ーINAXギャラリー
 1995ーかねこ・アートギャラリー
 1996ーギャラリーgen／ギャラリー日鉦

グループ展 1994ー日本金属造形作家展 ドイツ文化会館
 1995ー建築空間への提案展 十条アーキテクチャー愛知
 INAXギャラリー チャリティ展
 かねこ・あーとセクション展
 1996ーPRIVATE WORKS '96 ギャラリーgen
 ARTIST CAMP IN ASO 小国町(熊本県)
 1997ー神奈川アートアニュアル
 1998ー彫刻小品展 みゆき画廊



【特 選】立体「細胞一歡喜」鈴木 桃子



【特 選】平面「9人」西川 美智子



【特 選】立体「凜」小林 秀幹



【特 選】立体「座席の人びと」生越 麻紀子



【県立近代美術館賞】平面「顕現」佐藤 潔



【美術奨学会賞】平面「PARAPHRASE・101」菅沼 稔



【はまぎん財団賞】平面「時間・移行-9904」瀬尾 きみ子

市町村別出品者一覧

	平面	立体	工芸	書	写真	合計
横浜市	109	18	84	108	70	389
川崎市	30	1	16	15	16	78
横須賀市	14	1	5	9	7	36
藤沢市	18	3	12	14	6	53
茅ヶ崎市	9	1	5	3	1	19
平塚市	6	1	6	7	3	23
鎌倉市	16		12	31	11	70
逗子市	5	2	4	2	2	10
三浦市	1	1	2	2	1	7
相模原市	21	2	6	15	9	53
厚木市	2	1	6	2	2	13
大和市	5	2	2	3	4	14
伊勢原市	2	1	5	3	2	13
秦野市	4		2	1	2	9
座間市	2		2	2	2	8
海老名市	4			2		6
綾瀬市			10	1	1	12
小田原市	8			3	2	13
南足柄市	1				1	2
葉山町				1	1	2
寒川町	1		4	1		6
大磯町	1		1	5		7
二宮町	1	1	1	1		4
中井町			1			1
大井町						
松田町		1				1
山北町						
開成町			1			1
箱根町	1					1
真鶴町						1
湯河原町			1	1	1	3
愛川町			1		1	2
清川村						
城山町					2	2
津久井町	1		1			2
相模湖町						
藤野町	1					1
県内計	263	36	191	232	147	869
東京都	10	4	7	3	4	28
その他道府		2	1	3	4	10
県外計	10	6	8	6	8	38
合計	273	42	199	238	155	907

市町村別入選者一覧

	平面	立体	工芸	書	写真	合計
横浜市	44	4	45	77	57	227
川崎市	11	1	11	12	5	40
横須賀市	6	1	3	7	4	21
藤沢市	7	3	6	12	4	32
茅ヶ崎市	4		1	3	1	9
平塚市	1		5	4	1	11
鎌倉市	7		10	28	7	52
逗子市	2	1	2	2	0	7
三浦市			1	2	1	4
相模原市	6	1	4	15	6	32
厚木市			4	2	2	8
大和市	1	1	1	3	2	8
伊勢原市	1		2	3	1	7
秦野市	3		1	1	2	7
座間市	1		2	1	1	5
海老名市	1			2		3
綾瀬市				1	1	2
小田原市	3		8	3	1	15
南足柄市	1					1
葉山町				1	1	2
寒川町			2	1		3
大磯町	1		1	5		7
二宮町		1	1	1		3
中井町						
大井町						
松田町						
山北町						
開成町			1			1
箱根町						
真鶴町						1
湯河原町						2
愛川町						
清川村						
城山町					1	1
津久井町			1			1
相模湖町						
藤野町						
県内計	100	13	113	187	99	512
東京都	4	3	4	3	3	17
その他道府		2		3	4	9
県外計	4	5	4	6	7	26
合計	104	18	117	193	106	538

大賞受賞者

第1回	昭和40年度	大森 運夫『九十九里』日本画
第2回	41年度	廣瀬 義男『作品Ⅰ』洋画
第3回	42年度	垣内 治雄『坐る』彫刻
第4回	43年度	川村 直子『'69-A・'69-B』洋画
第5回	44年度	山井イク夫『Laby 70-1・2』立体造形
第6回	45年度	伊藤 彬『天涯巡礼』日本画
		大久保利園『Straw』工芸
		西川 万象『盧子諒詩』書
		加賀谷武男『にっぽんNONSENSE ZONE』写真
第7回	46年度	中西新太郎『落日』洋画
		島津 碧崑『寒山詩』書
		大谷 正夫『師ミス・ザンダー(フェリス女学院)』写真
第8回	47年度	佐々木英夫『人間の風景1・2』版画
		林 良達『騎士』工芸
第9回	48年度	河原 明『蜻蛉』彫刻
		石川 充宏『Girl in chair』工芸
第10回	49年度	大山 鎮『語り』日本画
第11回	50年度	鎌田 恵子『Lost my way』工芸
第12回	51年度	泉谷 淑夫『愁傷のモニュメント』洋画
第13回	52年度	井上 麦『黒の女・'77』彫刻
第14回	53年度	坂田 一之『MIRROR』立体造形
第15回	54年度	前本 利彦『暗い部屋Ⅰ・Ⅱ』日本画
		川口 流坡『菅原道真詩』書
第16回	55年度	和久井Who『HANGING』立体造形
		市原 欣一『ふるさと』写真
第17回	56年度	坂井 彰夫『SEISHO』彫刻
		高木 参平『BODY』工芸
第18回	57年度	小泉 正彦『冬の木』洋画
		井上 隆敏『イグナドバ選手』写真
第19回	58年度	井上 麦『土の系譜』彫刻
		茶木 静谷『竹籬松影』書
第20回	59年度	東谷 武実『日蝕F』版画
		西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻
		林 亘『クリスタル大鉢“洞”』工芸
第21回	60年度	鶴見 厚子『夢の質感』洋画
		石渡 四郎『硫黄島の再会』写真

第22回	61年度	会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻
		浜本 艸舟『良寛詩』書
第23回	62年度	高橋 洋子『WAVE(BLUE FENCE)』立体造形
		森山 可余『俳句(原石鼎)』書
第24回	63年度	三枝 孝司『複製された場所』版画
		管間ゆみい『夢印象』工芸
第25回	平成元年度	セツ・スズキ『アンタニアワカルメ』彫刻
		片岡 順一『大気現象』写真
第26回	2年度	山本 靖久『時の化石ー豊沃のかたち』洋画
		高橋あづま『遙かなる亜熱帯』工芸
第27回	3年度	荒井 正美『蟻の迷走』彫刻
		相沢 順一『樹界』写真
第28回	4年度	たべけんぞう『MAGNETIC FIELD 92-2』立体造形
		中森 万象『郎士元詩』書
第29回	5年度	王 青『チベットの娘』日本画
		平野 朱美『電解ザウルス』工芸
第30回	6年度	辻 忍『野辺』彫刻・立体造形
		八木 香葉『笹澤美明詩 菊』書
第31回	7年度	R 津田『封印ー過去と未来ー』彫刻・立体造形
		中田 文『阿弥陀堂釜』工芸
第32回	8年度	結城 勉『個々の領域ー群像Ⅱ』平面・立体
		今井今日子『Twilightー黄昏ー』工芸
		中西 雅舟『百人一首より』書
		中谷 晴男『山の民(ネパール)』写真
第33回	9年度	剣持 啓子『SANAGIー予兆』平面・立体
		村田 則子『レクイエム』工芸
		島田 幸舟『白鳥』書
		渡部 満『1.8 朝』写真
第34回	10年度	笹井 弘『動植物』平面立体
		堀口 成依『M!! きみ想う』工芸
		大岸 昌子『源氏物語』書
		君塚 宣良『還暦を迎える階段』写真
第35回	11年度	川田 祐子『BIOーPANORAMA』平面立体
		齋藤 龍也『白化粧象嵌花器』工芸
		稲葉 竹苑『観雨』書
		林 京子『午後の街』写真

もっと近くに、ずっと一緒に。



Good for you
CERTE

〒231-0016 横浜市中区真砂町3-33 (JR・地下鉄関内駅前) TEL 045-651-1431 (代)

プロのために、
プロの品揃えです。

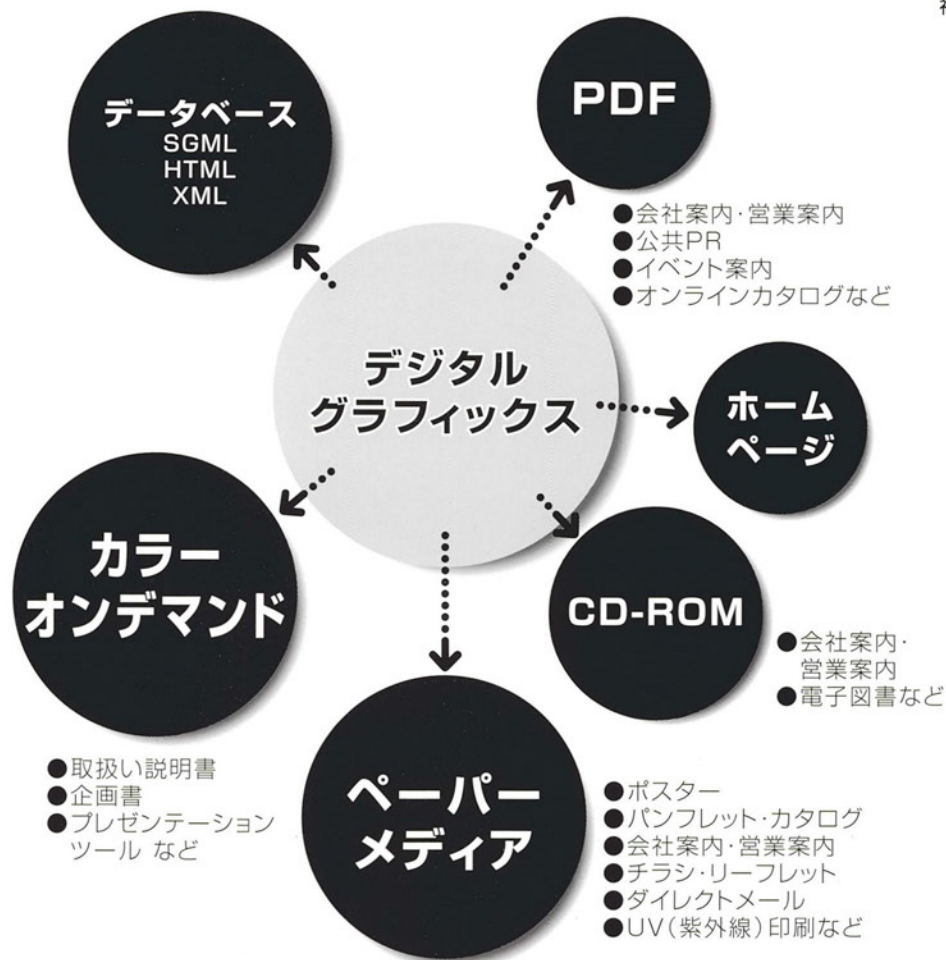


画材／書道用品／製図デザイン用品コーナー

- 文具館 イセザキ町・本店別館 4F・5F…………TEL.(045)261-1231
- 横浜駅東口ルミネ店 ルミネ5F…………TEL.(045)453-0811
- 藤沢店 藤沢駅南口名店ビル 2F…………TEL.(0466)26-1411
- 厚木店 小田急線・本厚木駅前…………TEL.(0462)23-4111

※ルミネ店・藤沢店は書道用品・日本画材のみ取り扱いしております。

有隣堂ギャラリー〈イセザキ町・本店書籍館B1〉



ひとつのデータを
多様に展開。

- 業務効率の向上
- 経費の節減
- 納期の短縮

「日本自費出版文化賞」創設
自費出版ネットワーク会員
「自費出版ホームページ」の申込みも

通産大臣賞・中小企業庁長官賞等多数受賞

野毛印刷

本社／横浜市中区相生町5-79 〒231-0012

営業企画本部／横浜市中区新川町1-2 〒232-0027

☎(045) 252-2511

ホームページ <http://www.noge.co.jp>

第35回神奈川県美術展 関係者名簿

顧問

小倉 遊亀
近藤 弘明
斎藤 義重
井上 信道
圓鐸 勝三
蓮田脩吾郎
殿村 藍田
比田井南谷
菅原 寿雄
弦田平八郎
中原 佑介
吉田 耕三

神奈川県美術展委員会

委員長 上野 豊
委員 神戸 由雄
井上 玲子
酒井 忠康
勝呂 忠
針生 一郎
平松 礼二
白石 和巳
竹田 悦堂
土田ヒロミ
永井鐵太郎
浜口タカシ
柳生不二雄
吉田 蘭處
伊佐 浩一
蔵 隆司

審査員

平面 立体

井上 玲子
勝呂 忠
平松 礼二
渡辺 豊重
中原 佑介
陰里鐵太郎
原田 光

工芸

中村 光哉
南雲 龍
根来 茂昌
大森 邦
柳生不二雄
永井鐵太郎

書

溪口 幽城
竹田 悦堂
殿村 藍田
茶木 静谷
丹羽 蒼処
船本 芳雲
古谷 稔

写真

岩崎 隆久
江成 常夫
岡井 耀毅
倉石 信乃
土田ヒロミ
常盤とよ子
浜口タカシ

第35回神奈川県美術展

発行●財団法人神奈川県芸術文化財団 ©1999

神奈川県民ホールギャラリー

〒231-0023 横浜市中区山下町3-1

TEL.045-662-5901

撮影・株式会社菊屋写真工房●大橋一彦

表紙・本文デザイン・制作●株式会社野毛印刷社

発行●1999年9月7日

